

令和7(2025)年度 下都賀地区教育相談連絡会第2回研修会を開催しました

日 時： 令和7(2025)年10月2日(木)

会 場： 小山市桑市民交流センター マルベリー館

参加者： ・下都賀地区各市町教育相談機関の関係者

・下都賀地区各市町教育支援センター担当者

・下都賀地区各市町教育委員会教育相談関係担当者

・県南健康福祉センター福祉指導課・健康支援課担当者

・各市保健福祉部・福祉事務所福祉部家庭相談員

・栃木県教育委員会SSW

・下都賀地区小・中・義務教育学校教育相談担当者又は不登校児童生徒に関わる教職員

1 研修内容について

○ 目的 (1) 教育相談に関わる今日的な話題や課題について研修を深め、教育相談に関わる担当者の資質の向上を図る。

(2) 児童生徒への適切なアセスメントの重要性や関係機関との連携について理解を深め、チーム支援による対応力の向上を図る。

○ 内容 講話1「教育支援センターからの実践発表」

野木町教育相談指導教室「あすなろ教室」

講話2 テーマ「児童生徒への適切な支援に向けて～医療との連携の視点から～」

研修講師 西真岡こどもクリニック こどもの心と発達科

膝附 政江 様(前小山市立羽川小学校長)

2 本研修で学んだこと(参加者が記入した〈研修の振り返り〉から)

○ あすなろ教室の実践報告では、児童生徒を温かく迎え、勇気を認めてたくさんの経験を積ませる活動を計画しておられ、安心して通うことができるのだと感じました。登校復帰する子どももいると伺い、学校との連携が重要であると感じました。

○ 学校には行きづらくても生徒が自宅から一歩踏み出して、活動しようとする環境を丁寧に作ってくださっており、あすなろ教室の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。今後も引き続き密に連携を図らせていただこうと思います。

○ 様々な課題を抱えた児童への対応は、担任1人ではなく、学校内のチーム、教育相談指導教室、そして、医療機関など、たくさんの方々と共にできるということが再認識できました。特に、担任と保護者の関係を崩さないよう、管理職の先生と共に動いていただけることは、本当に心強いと思いました。そして、あすなろ教室のような家庭的な温かみのあるところで、学習面や生活面を支えていただき、専門的な視点から助言や処方をしていただける、西真岡こどもクリニックの存在も大きいと感じました。

○ 教育相談教室の詳細な支援計画や体験活動の内容、それらのねらいや根拠を知ることができ勉強になりました。指導や対応も学校と足並みをそろえて行っているとわかりました。

○ あすなろ教室の実践発表では、町全体で子どもたちをはじめ、保護者や学校を支えている様子がうかがえました。ここで得た経験や成長が心の安心感となり学校復帰への大きな力になる、大きな存在になっていると感じました。

○ 不登校の実態や学校の組織対応の重要性、学校と医療の連携の大切さなどを学びました。9月から

一度も登校できていない児童がいるので、事例を参考に養護教諭としてできる繋がりをたくさん作ってあげたいと思いました。「子育ての味方はたくさんいた方がいいでしょ」、という膝附先生のお言葉を、ぜひ児童の母親にも伝えて勇気づけてあげたいと思います。

- 目に見える現象にとらわれず、子どもの困り感の背後にある特性や気持ちにも丁寧に向き合っていきたいと思いました。いただいた参考資料もとても分かりやすく、日々の対応に役立てていきます。
- 保健室はセンター的機能ということていろんな人や場所につなぐことをモットーにしていますが、今日の膝附先生の「闘わずにつながる」という言葉がとても励みになりました。
- 医療との連携の部分がとても参考になりました。現在、病院につなげたくてもなかなかスムーズに繋がらない現状があると思います。どうつないでいくのか、どこの部分まで協力して児童支援ができるのか、まだまだ難しい部分がたくさんあるので、整理しながら少しずつ前に進んでいけたらと思いました。
- 医療・学校・保護者が協力して子どもを支えることの大切さを改めて感じました。先生が紹介された事例は、どれも子どもに寄り添い、保護者と一緒に長い時間をかけて支援してきたものばかりで、とても感動しました。その熱意と行動力は、教育現場にいる私たちにとっても大きな刺激になりました。
- 校内でチームを組み、役割分担を明確にして動いていくことの大切さを改めて感じました。不登校の状態評価を見極めることが大切であるため、私自身は、やはり子どもや保護者との関わり、繋がりを大切にしていきたいと感じました。
- 円滑に医療と連携するためには、学校が組織として対応していくことが大切であることを再確認しました。教育相談の担当として、担任と管理職の先生をつなぐ役割をしていき、組織として動けるようにしていきたいです。
- 「不登校の状態評価をする→状況や要因に応じた対応」「チームで対応することの大切さ」「闘わないで、共に考えましょう」等、子どものために大切なことを、改めて教えていただきました。また、管理職の役割についても考えさせられました。子ども・保護者・職員構成によって違ってくると思うので、その都度、適切な支援に向けてチームで考えていこうと思います。

